micro-TPCを用いたガンマ線 イメージング検出器の開発(8)

京大理 <u>服部 香里</u>

谷森達·窪秀利·身内賢太朗·土屋兼一· 株木重人·高田淳史·岡田葉子·西村広展· 上野一樹·黒澤俊介



<u>μ-PIC</u>を用いたMeV γ 線カメラ



大型 μ -PIC(micro pixel chamber)の開発

subMeV~MeV領域での観測を目指す 目標はCOMPTELの10倍の感度 ガンマ線カメラの大型化 → ・・・・ µ-PICを10cm角から30cm角へ

μ-PIC・・・・2次元ガス検出器
(電極のピッチ 400 μ m, サイズ30cm × 30cm)
試作2作目が今年2月に完成
→歩留まりが改善
1作目 bad pixel, dead pixel 1%
2作目 なし





 $30 \text{cm} \mu$ -PIC

2006年日本物理学会秋季大会

大型 μ -PIC + GEM

μ-PIC単体のガス利得では
 反跳電子の詳細な飛跡を得るのに不十分
 (gain 2×10⁴以上必要)



30cmGEM

➡ GEM(gas electron multiplier) (Sauli, CERN) ➡ 前置増幅器(低gain ~ 10)



→30cm角µ-PIC+大判GEM (28cm×23cm) (サイエナジー製)

μ-PIC+GEMのtotal gain 10日間2.7×10⁴での安定動作





大型TPCの開発(2)





エネルギー分解能(FWHM) 37.8%@22keV (検出部10cm²使用)

gain map



2006/9/22

2006年日本物理学会秋季大会

MPGC

MeVガンマ線カメラ(1)

ガンマ線カメラ

encode

source

散乱ガンマ線をとらえるためのシンチレーター NaI(TI)Angerカメラ(1つの結晶を36個のPMTで読み出し)



位置分解能 < 11mm(FWHM) 有効面積 (イメージのゆがみなし) ~30×30cm²

- エネルギー分解能 7.4%(FWHM)
 - @662keV,11.2%(FWHM)@80keV
- Dynamic Range 80keV-1.5 MeV (2005年3月折戸講演)

2006年日本物理学会秋季大会



Anger

ASD

camera

MeVガンマ線カメラ(2)

23cm×28cm大判GEM
 1,2週間安定動作のち放電→導通
 数ヶ月安定動作する10cm角GEMに代替
 システムが完成次第、大判GEMに置き換える予定
 以後10cm角GEM+30cm角 μ -PIC
 DAQのチェックとして

²²Na $e^+e^- \rightarrow 2\gamma$ (511keV, back to back) $\epsilon \geq 5\pi$











2006年日本物理学会秋季大会



Conclusions

30cm×30cm1×15cm μ -TPCの性能評価 位置分解能 $\sigma(l) = \sigma_{detector}^2 + (D\sqrt{l})^2$ (*l*:drift length)

 $\sigma_{\text{detector}} = 0.51 \,\text{mm}, D = 0.37 \,\text{mm}$

エネルギー分解能 FWHM 35.5%@22keV e⁺e⁻ → 2 γ (511keV, back to back)をµ-TPCとAnger camera でとらえることができた

Future Works

- 今後は µ TPCとAnger CameraでCompton 散乱をとらえる予 定
- 大判GEMの改良(貼り方、100 µ m厚のGEM)
- 30cm×30cm1×30cmµ-TPCと組み合わせた

ガンマ線カメラを製作 5/9/22 2006年日本物理学会秋季大会

2006/9/22

